

第2次桔梗が丘地域ビジョン

桔梗が丘 “ほっとまち”構想

2022年5月



桔梗が丘自治連合協議会
(桔梗が丘市民センター内)

〒518-0626 三重県名張市桔梗が丘6番町1-131-4

TEL: 0595-65-1206

mail: info@kikyogaoka.jp

<https://www.emachi-nabari.jp/kikyo/>



桔梗が丘自治連合協議会

目 次

はじめに	1
桔梗が丘“ほっとまち”構想	2
“ほっとまち”憲章の制定	3
施策の基本的方向（基本計画）	4
ほっとまち推進プロジェクト事業	10
推進の方策及び体制	11
資料編	
資料1 桔梗が丘の人口推移	12
資料2 アンケート調査結果及び考察	14

はじめに

桔梗が丘では、2011年11月に地域ビジョン「桔梗が丘“ほっとまち”構想」を策定し、将来都市像「人の心が織りなす幸せ社会“ほっとまち”桔梗が丘」の実現に向けて、桔梗が丘自治連合協議会（以下「協議会」という。）が中心となって様々な活動に取り組んできました。

10年が経過するなか、地域ビジョンの基本的なこと（将来像、基本理念、6つの基本的方向、“ほっとまち”憲章）は継承することとし、施策や事業の一部見直しを行うため、地域ビジョン策定プロジェクトチームを立ち上げ、作業を進めました。

2021年3月に桔梗が丘全世帯を対象にアンケート調査を実施し、また、桔梗が丘3小学校、2中学校へのアンケート調査を実施しました。さらに10年間取り組んできた施策や事業を検証し、成果の確認や課題の抽出を行いました。

少子高齢化社会が進み、駅前の賑わいの喪失、空き家対策等地域の課題も多様化しており、協議会が今後活動を展開していくための指針として、地域ビジョンの見直しが必要となりました。

「地域でできることは地域で行う」という基本的な考え方に基づいて地域ビジョンで明らかにされた施策や事業を行政と連携、協力しながら進めていきます。

誰もが「桔梗が丘に住んでいてよかった」と感じられるよう、協議会では地域住民の皆さんをはじめ、各種団体、ボランティアの方々と連携、協力のもと、引き続き地域ビジョンの実現を目指したいと考えていますので、ご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

2022年5月

桔梗が丘自治連合協議会

第2次桔梗が丘“ほっとまち”構想

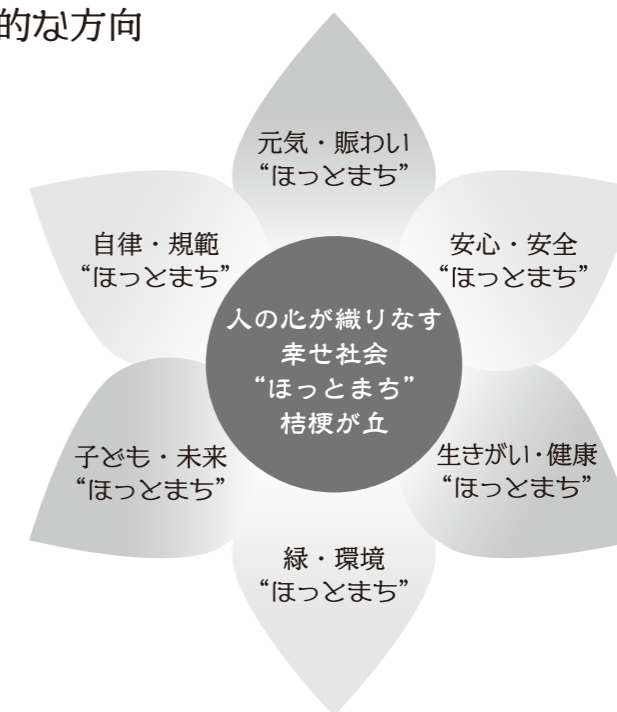
1. 桔梗が丘が目指す将来像

人の心が織りなす幸せ社会“ほっとまち”桔梗が丘

2. 基本理念

ほっとする心地良い居場所、そこには笑顔とやさしさがあり、絆があります。
HOTなまち、そこには人々が行き交い、元気と賑わいがあります。
豊かな心、そこには自然や緑を愛する心、人を思いやる心があります。
そのような人の心が織りなす幸せ社会が“ほっとまち”桔梗が丘です。
私たちは、人がいきいきと輝き、互いを思いやり、支えあい、自分らしさを出せるよう、「人づくり」や「絆づくり」を大切にして、住み良さが実感できる“ほっとまち”桔梗が丘を創ります。

3. 6つの基本的な方向



4. 目標年次

第2次地域ビジョン「桔梗が丘“ほっとまち”構想」の目標を10年とします。



“ほっとまち” 憲章 (2011年制定)

「“ほっとまち” 桔梗が丘」を実現するために、住民一人ひとりが価値観の多様性を尊重しつつ、社会的な規範を守り育てる“ほっとまち” 憲章を定めます。

- 1 地域活動を通じて広く社会に貢献しましょう
- 1 あいさつを交わすコミュニティを育みましょう
- 1 未来を託す子どもたちを地域ぐるみで育みましょう
- 1 自分らしさを発揮し、地域とのつながりを深めましょう
- 1 自然を守り、心地よい環境を創りましょう



2022年度から第2次桔梗が丘“ほっとまち”構想のスタートに際して、協議会ロゴマーク(桔梗が丘中学校美術部に制作依頼)を制定しました。

桔梗の花咲くみどり豊かな“ほっとまち”桔梗が丘は、みんなで助け合い支え合って暮らしている心温かな明るい街

施策の基本的方向 (基本計画)

6つの基本的方向の具体的な取り組みの展開を明らかにして、具体的な施策や事業を進めます。

I 元気・賑わい“ほっとまち” (施策の体系)

誰もが元気で暮らし、人が行き交い、集う活気のある街並みや居場所をつくり、元気・賑わいが感じられるまちを創ります。

元気・賑わい“ほっとまち”

- すべての住民が生き生きと暮らせるまちづくりを進めます
- 地域住民の交流機会を創出し、地域コミュニティを育みます
- イベントや行事を企画し、地域活動への参加を進めます
- スポーツ、文化芸術活動を通じ世代間交流を進めます
- 地域資源を活用し、コミュニティビジネスを創出します
- 若い世代が協議会のまちづくりへ参画できる機会を増やします

主な取り組み

- ・ 新しい駅前の賑わい、元気な商店街の取り組み
- ・ 桔梗が丘未来塾(子ども、若者、子育て世代を対象)プロジェクト事業の創設
- ・ 女性や若者のパワーの活用と協議会の活性化



II 安心・安全“ほっとまち”（施策の体系）

地域ぐるみでの助け合いの社会や安らぎのある快適な暮らしのなかで、安心・安全が感じられるまちを創ります。

安心・安全“ほっとまち”

- みんなが安心して暮らせる住み良い地域社会を創ります
- 自主防災組織を強化し、地域防災力を高めます
- 交通事故のない安全なまちづくりを進めます
- お助けセンターの活動を充実し、日常生活を支援します

主な取り組み

- 地域防災力の強化、自主防災推進プロジェクト事業の推進
- 空き家、空き地対策の取り組み
- 老朽化した公共施設（公園、道路、歩道等）の改修整備の促進
- 危険個所の点検と改修



III 生きがい・健康“ほっとまち”（施策の体系）

スポーツ、文化・芸術活動など余暇の充実やボランティア活動で自分らしい生きがいを見つけ、健やかに暮らせる地域社会をつくり、生きがい・健康が感じられるまちを創ります。

生きがい・健康“ほっとまち”

- 余暇の活動を促進し、生きがいの持てるまちづくりを進めます
- 健康づくりを進め、笑顔で暮らせるまちづくりを進めます
- 地域住民の健康管理を支援します

主な取り組み

- ナッキー号等コミュニティバスの桔梗が丘西地区への運行を促進
- 協議会・市民センターの事業を桔梗が丘南地区・西地区での実施
- 健康づくりの団体との連携強化、支援策等の実施



IV 緑・環境“ほっとまち”（施策の体系）

自然を大切に、街なかの緑、きれいな街並みを持続させ、環境に関心を持った暮らしを通じて、緑・環境が感じられるまちを創ります。

緑・環境“ほっとまち”

- 水と緑を大切に、恵まれた自然を生かしたまちづくりを進めます
- より良い生活環境を創り、きれいなまちづくりを進めます
- 各地区の児童公園を憩いの場、交流の場となるようにします

主な取り組み

- 各地区にある児童公園の見直しと整備
- 3カ所の自然公園整備（駐車場の確保、ビオトープ、野鳥観察小屋、子ども広場の整備等）
- 街なか美化の推進（犬のフン、ポイ捨て、空き家空き地の雑草等）
- 街路樹の適正管理



ビオトープ

自然の生態系を身近に感じられる空間のことで、ここでは、自然公園内に生態系を人工的に再現することを言います。

V 子ども・未来“ほっとまち”（施策の体系）

子どもたちが健やかに育ち、権利が守られ、知・徳・体の向上により、子ども・未来が感じられるまちを創ります。

子ども・未来“ほっとまち”

- 子どもたちと地域の絆を深め、地域教育力を高めて健全な成長を育みます
- 子どもたちの通学の安全を確保します
- コミュニティスクールの活動を支援します
- 子育てしやすい環境の確保と支援を進めます
- 子どもたちのスポーツ、文化・芸術活動を支援します

主な取り組み

- 地域活動への子どもの参加、学校運営ボランティアへの地域の参加等双方向での世代間交流の拡大
- 市民センター等を子どもたちが利用しやすい環境に整備



VI 自律・規範“ほっとまち”（施策の体系）

近所づきあい、地域活動を通じて地域への愛着を深め、社会のルールに従い、自分らしさを出せる暮らしのなかで、自律・規範が感じられるまちを創ります。

自律・規範“ほっとまち”

- 地域の生活ルールを守り、自律したまちを創ります
- 路上車庫使用の禁止、ペット飼い主のマナー向上、ゴミのポイ捨て禁止
- ゴミだしマナーの向上、空き地・空き家の管理、公共公益施設の使用マナーの向上

主な取り組み

- 地域社会のルールの共有
- 空き家・空き地の適正管理の啓発



ほっとまち推進プロジェクト事業

桔梗が丘“ほっとまち”構想を実現するために重点的かつ戦略的に取り組むことが必要と考えられる「ほっとまち推進プロジェクト事業」を推進します。

これまでの10年間で7つのプロジェクト事業のうち、5つのプロジェクト事業（桔梗が丘お助けセンター、ききょう農楽園、みどりの会、地域と子どもたちの絆づくり、ほっとまち茶房ききょう）に加えて住居表示板設置事業を立ち上げてきました。各事業とも地域と密接に繋がり、事業部会として事業を展開しています。

今回、新たに次のとおり「ほっとまち推進プロジェクト事業」に取り組みます。

1. 自主防災プロジェクト事業（継続）

各自治会・区の自主防災隊の組織的な取り組みを支援できるように、自主防災隊の組織強化、人材育成、防災訓練、防災研修等を行う自主防災推進支援チームを設置します。

2. 桔梗が丘未来塾プロジェクト事業

子ども、若者、子育て世代等が中心となってイベントや行事を開催し、運営できる仕組みを整備します。

3. 桔梗が丘SDGs推進プロジェクト事業

協議会として住み良い街づくりの取り組みのなかで協議会としてできるSDGsを整理し、住民への啓発、協議会としてのガイドライン等を作成し、実践します。



SDGs (エスディージーズ)

SDGs（持続可能な開発目標）とは、国連で採択された2030アジェンダ（行動計画）の具体的な指針です。“ほっとまち”構想の実現に向けた取り組みがSDGsの目標達成につながります。

推進の方策及び体制

地域ビジョンを推進するためには、行政との協働は欠かせませんが、それ以上に、地域住民の皆さんが絆づくりを進め、地域ぐるみの取り組みが必要となります。

協議会だけの取り組みだけでなく、自治会・区、学校運営協議会、ボランティア団体、消防団、老人クラブなど地域の様々な団体とのネットワークにより、地域のニーズに対応した取り組みの展開を図れるように「オール桔梗が丘」体制を整備していきます。

協議会では、地域ビジョンに合わせた組織の再編のほか、円滑な運営が行えるよう次のことを推進します。

1. ボランティアバンク制度の創設

協議会の活動を円滑に継続して運営していくためには、ボランティアスタッフの確保が必要です。新しいメンバーの加入を促進するためボランティアバンク制度を創設します。

協議会の活動を生きがい、仲間づくりという気楽な気持ちで参加し、地域貢献活動に繋がっていききたいものです。

2. オール桔梗が丘体制の整備

桔梗が丘では、多くの団体、個人が多様な分野でボランティア活動をしています。協議会及び自治連合会(自治会・区)は、コミュニティ組織であり、住民生活の安心・安全を守っています。多様化、複雑化する地域社会に対応していくためには、地域の様々な団体と連携、協力しなければなりません。そのため、「オール桔梗が丘」体制を充実します。

3. 行政機関との協働による課題解決

桔梗が丘駅前の賑わい、空き家対策、公共施設の老朽化対策等は、協議会だけでは解決できません。こうした課題が多くなっており、住民の最大の関心事でもあります。協議会としては、積極的に行政機関に働きかけをして改善されるよう取り組みます。

4. 協議会、市民センターに若い世代の参画を促進する検討会設置

若い世代の協議会への参画、市民センターの利用を促進するためには、若い世代自らが企画、運営、管理できるようにサポートする必要があります。若い世代が活動しやすい条件整備等を進めます。

資料編

資料1 桔梗が丘の人口推移

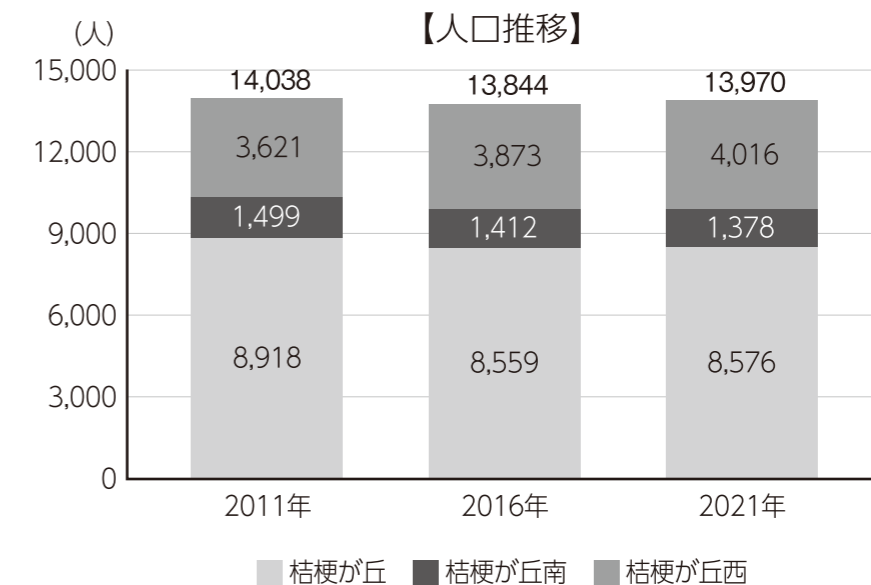
前回ほっとまち構想策定時、1998年から2008年の人口推移は、1998年13,588人(4,622世帯)、2008年14,111人(5,472世帯)と増加傾向を示していました。

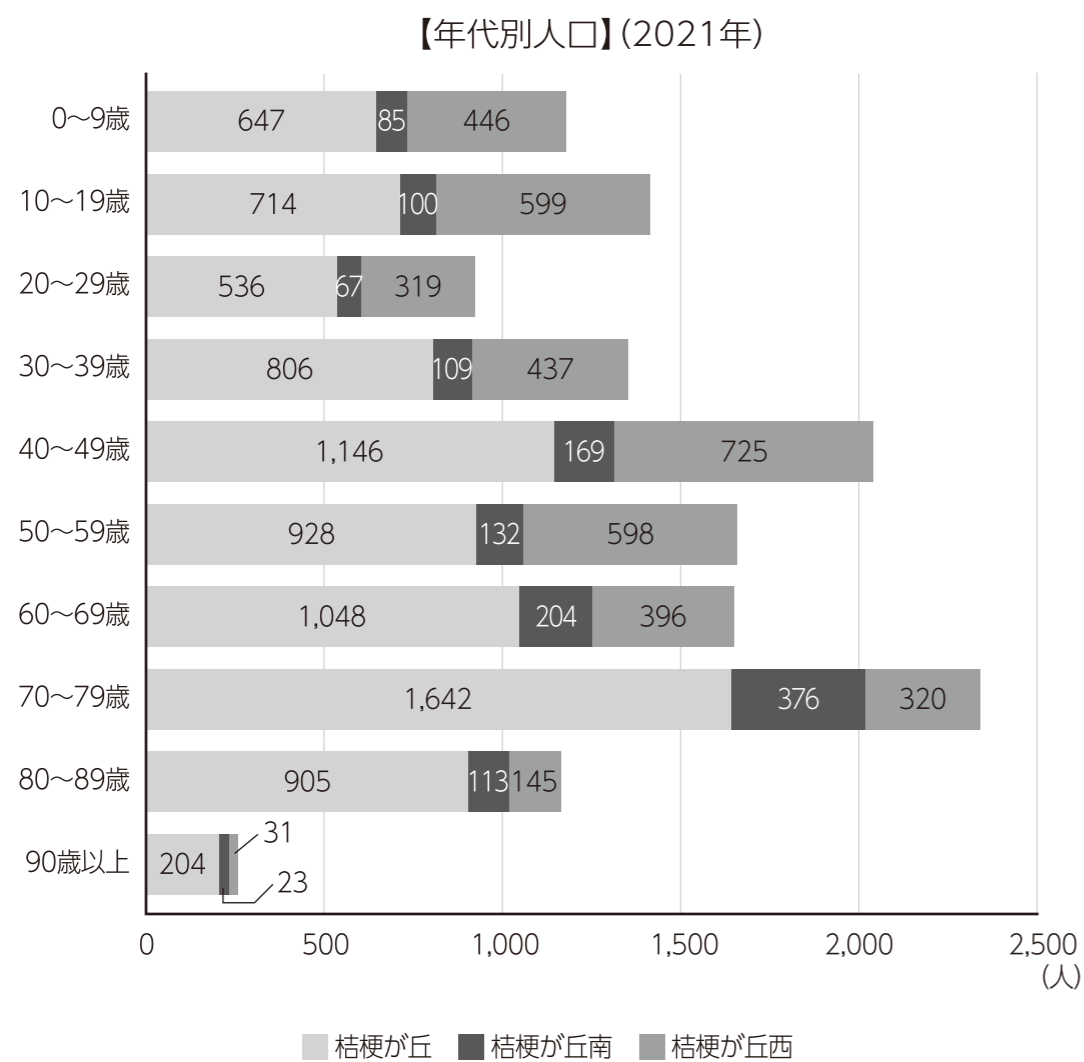
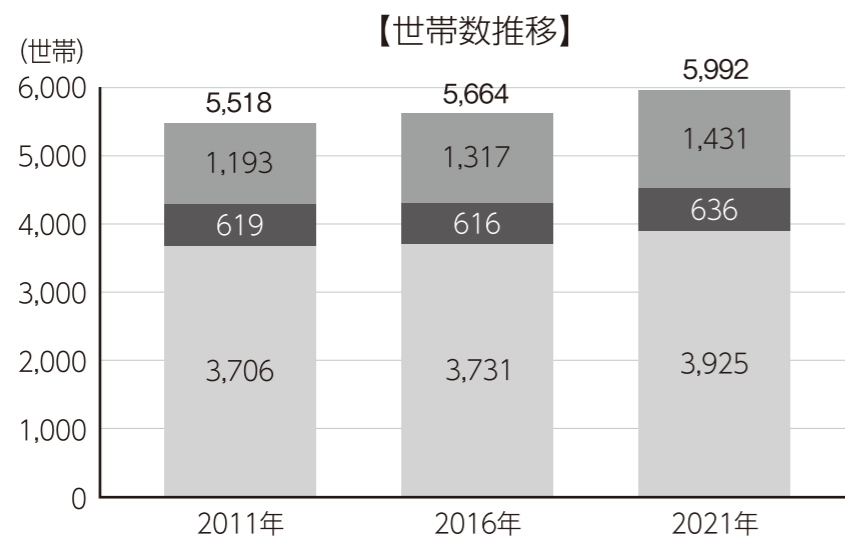
今回、2011年から2021年の人口推移をみると、2011年14,038人(5,518世帯)、2021年13,970人(5,992世帯)と人口は微減、世帯数は増加しています。

ブロック別にみると、桔梗が丘と桔梗が丘南合わせて10年間で463人減少、桔梗が丘西395人増で全体では微減で推移しています。

高齢化については、2011年から2021年をみると、65歳以上は2011年3,620人、25.8%、2021年4,665人、33.4%と増加し、3人に1人が65歳以上の高齢者となっています。

桔梗が丘の人口の推移をみると、桔梗が丘西地区が増加し、桔梗が丘及び桔梗が丘南地区は減少していますが、全体では、ほぼ横ばい状態となっています。高齢化は、年々進行しています。今後も桔梗が丘西地区の増加傾向がしばらく続き、桔梗が丘と桔梗が丘南地域の減少傾向もこのまま推移するものと予測され、全体では、減少傾向を示すものと考えられます。



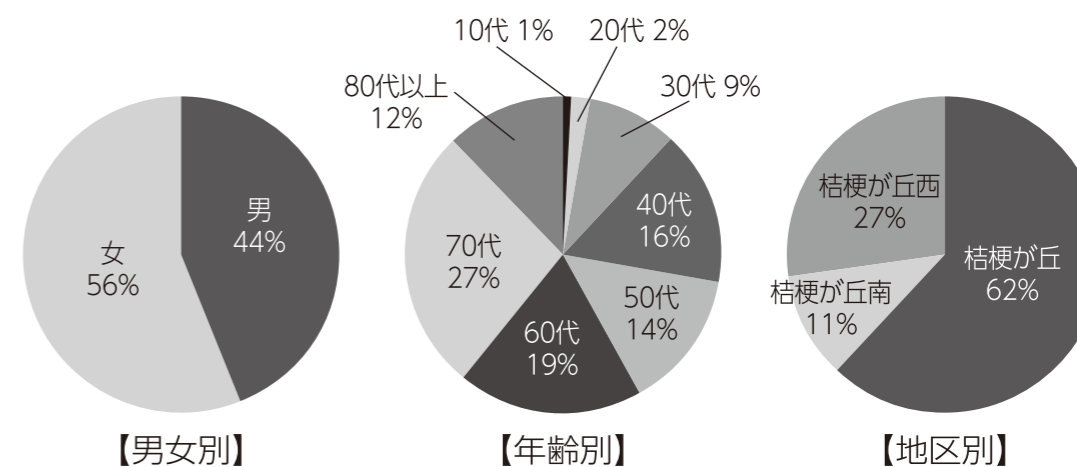


資料2 アンケート調査結果及び考察

I 住民アンケート調査

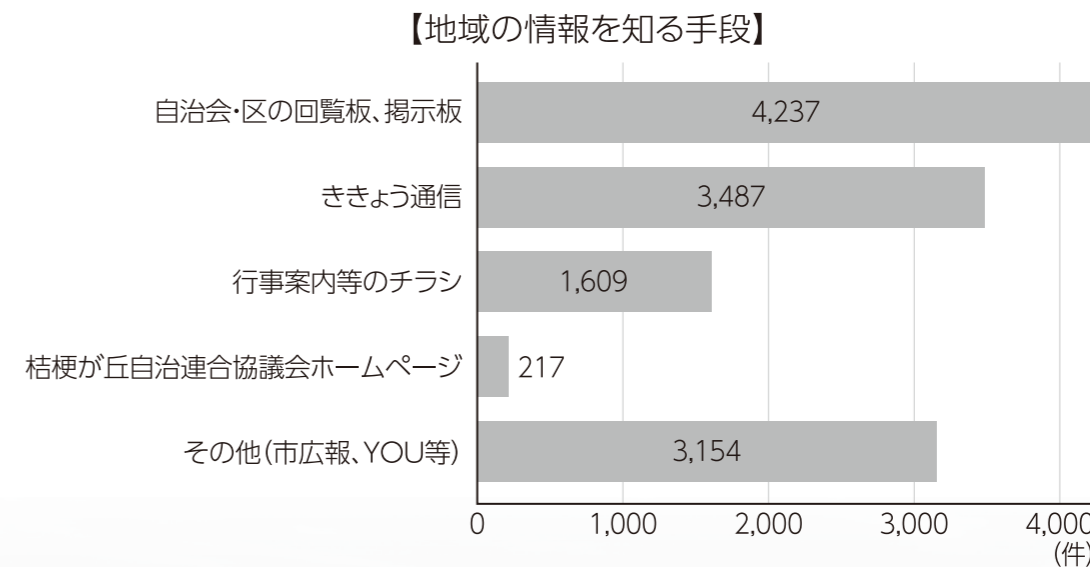
2021年3月に桔梗が丘全世帯を対象にアンケート調査を実施しました。自治会・区を通じて各戸に配布し、5,272世帯に1世帯2通のアンケート調査票を封筒に入れて2名までの記入をお願いし、回答結果は5,377名の方から回答を頂きました。

回答者は、男女の比率は男性44%、女性56%、年齢別では70代27%、次いで60代19%、40代16%、以下50代、30代の順となっています。ブロック別では桔梗が丘地区62%、桔梗が丘南地区11%、桔梗が丘西地区27%となっています。



アンケート結果の概要は次のとおりです。

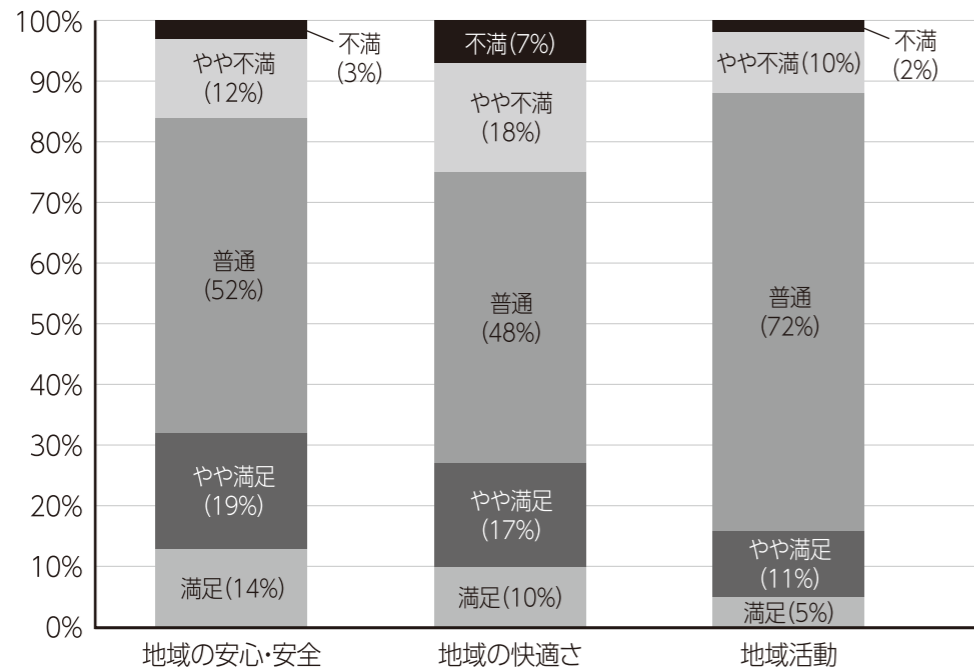
1. 地域の情報を知る手段では、自治会・区の回覧板、掲示板79%、ききょう通信65%で多くの住民に協議会の情報をみてもらっています



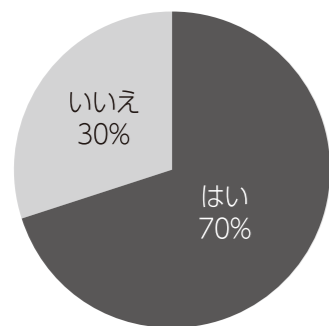
2. 満足度を問う項目は、地域の安心・安全（①治安②交通安全③防犯④防火⑤災害⑥啓発⑦医療⑧子育て⑨障がい⑩通学の10項目）、地域の快適さ（①自然②交通③日常④余暇⑤買い物⑥飲食⑦きれい⑧ごみ⑨働く⑩健康⑪集会所⑫街路樹⑬公園の13項目）について、満足度を5段階で評価してもらいました。

地域の安心・安全では、満足とやや満足は33%、不満とやや不満は15%、地域の快適さでは、満足とやや満足27%、不満とやや不満は25%で拮抗しています。

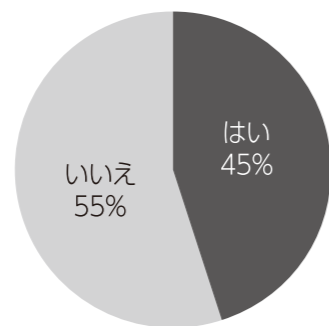
【住み良さの満足度】



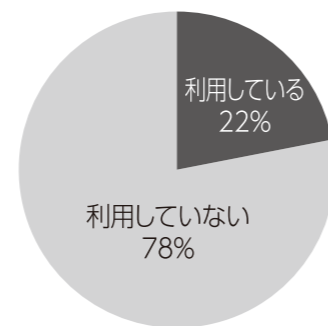
3. 住民の活動への参加状況では、自治会・区の活動には70%、協議会のイベント・事業には45%の方が参加したと回答、しかし、市民センターを利用していると回答した方は22%と少ないことが分かりました。



【自治会・区活動に参加の有無】



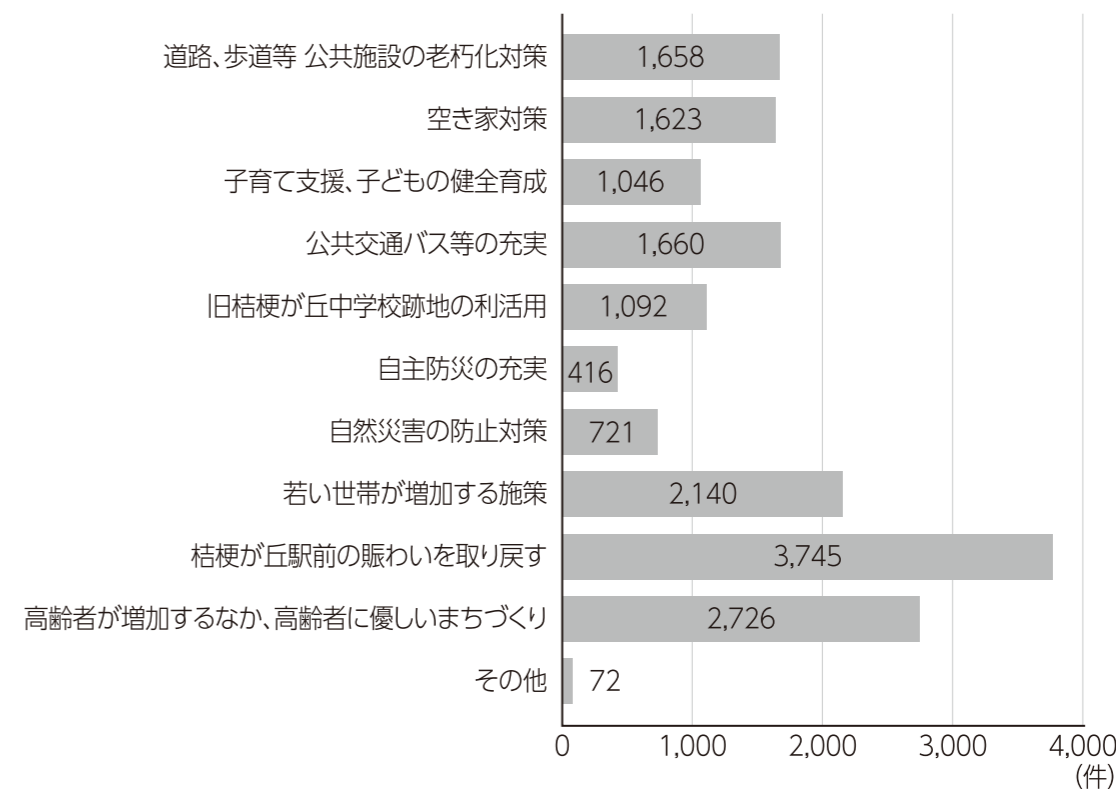
【事業やイベントに参加の有無】



【市民センターの利用】

4. 今後取り組みが必要なこととして11項目を挙げ、複数選択の回答を頂きました。最も多かったのは、「桔梗が丘駅前の賑わいを取り戻す」3,745件、次に「高齢者に対する施策」2,726件、「若い世帯が増加する施策」2,140件、「公共交通バス等の充実」1,660件、「道路、歩道等公共施設の老朽化に対応」1,658件、「空き家対策」1,623件、「旧桔梗が丘中学校跡地利活用」1,092件、「子育て支援・子どもの健全育成」1,046件と続き、以下「自然災害防止」「自主防災の充実」となっています。

【今後取り組みが必要なこと】



5. 自由意見欄に記載された意見等は、3,820件あり、「桔梗が丘に対する満足度」、「今後の取り組み」で多くの意見・要望・提案等をいただきました。内容は主に現状に対する不満や是正要求等であり、概ね次のとおりでした。

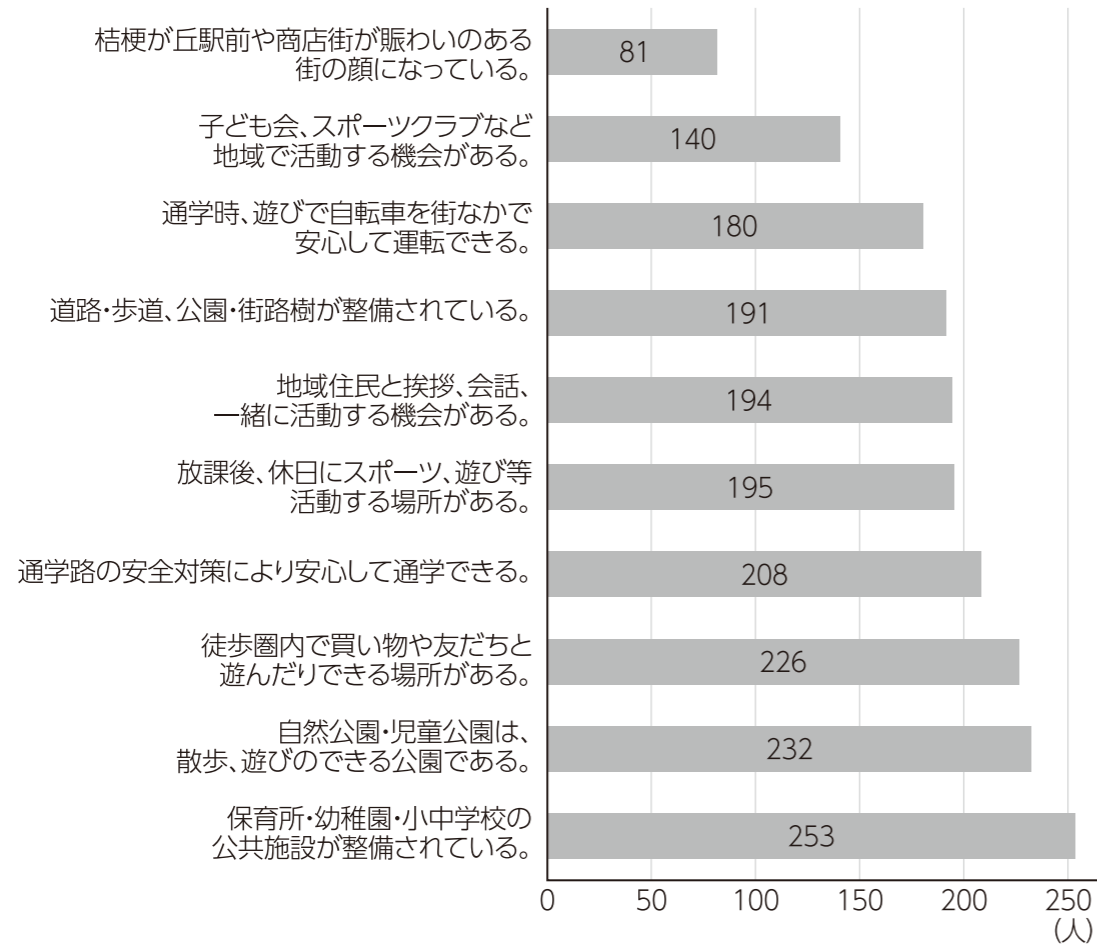
- ①桔梗が丘駅前の現状と改善要求、旧桔梗が丘中学校の跡地利用、買い物等外出に対して公共交通機関（ナッキー号含む）の充実
- ②道路、歩道、街路樹の適切な維持管理・補修
- ③空き家対策、利用策の必要性
- ④高齢者にやさしく、若い世代が住みやすい街づくり
- ⑤桔梗が丘西地区の通学問題
- ⑥違法駐車、ゴミのポイ捨て、街路樹等身近な生活上の問題
- ⑦市民センターの利活用の在り方（特に若い世代の利用）
- ⑧防災対策で日常的な活動の必要性



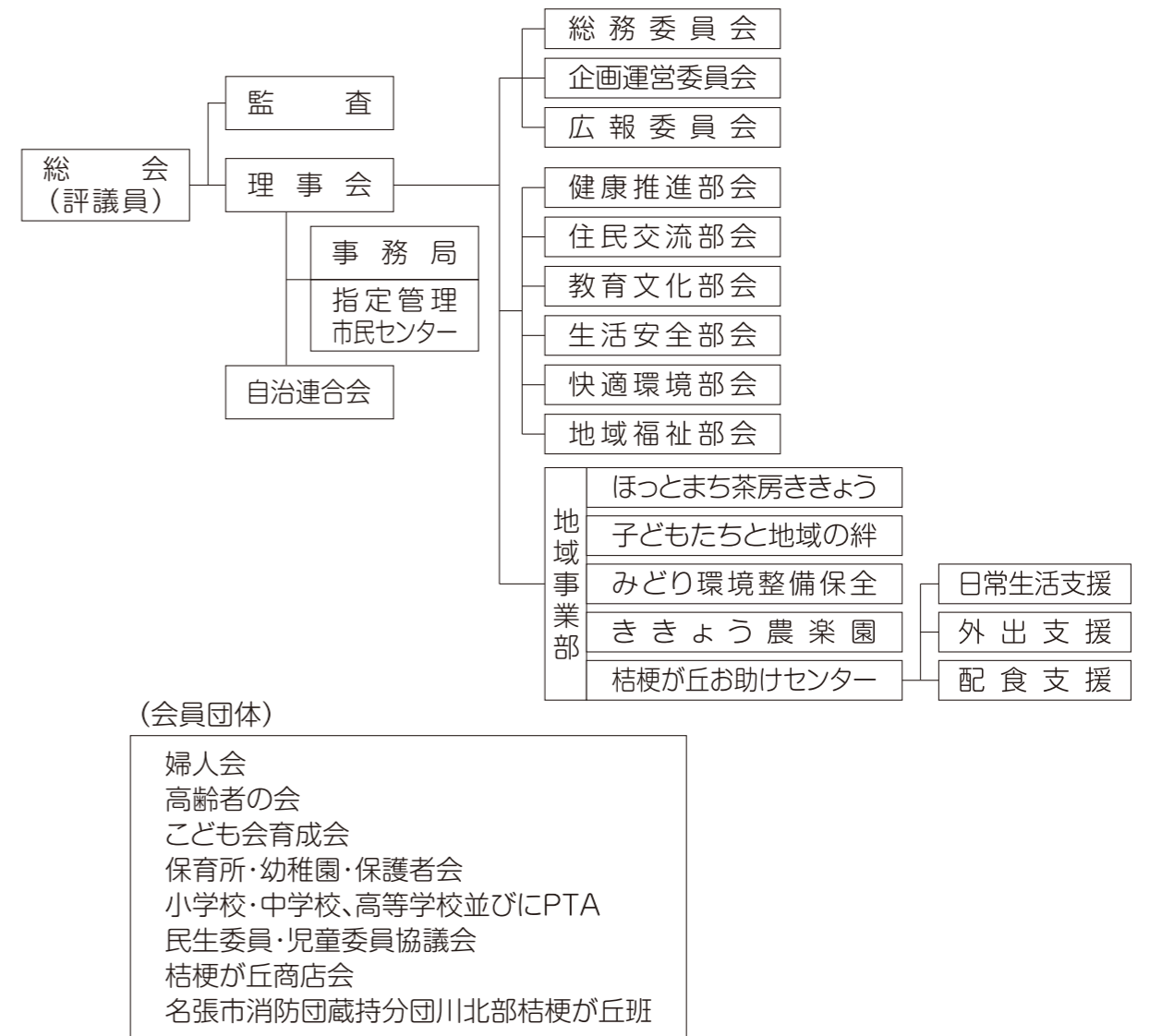
II 小中学生アンケート調査

桔梗が丘3小学校、2中学校へのアンケート調査は、小学校は新6年生、中学校は新2年生（北中は桔梗が丘南小卒業生）を対象に行い、285名の回答がありました。

【小中学生 桔梗が丘は住み良い街ですか】



【桔梗が丘自治連合協議会組織】



III 協議会関係者アンケート調査

協議会の運営に携わっているメンバー47名から回答を頂きました。協議会の運営に関する課題、施策や事業の見直し、新規施策事業の導入、市民センターの運営等で意見がありました。特に多かったのは、ボランティアスタッフの確保で最重要課題であるとしています。

地域ビジョン策定プロジェクトチームメンバー

- | | | |
|-------|--------|-------|
| 大垣 孝彦 | 坪 香 昭 | 西宮 剛志 |
| 村田 憲子 | 鶴田 外志夫 | 上田 博 |
| 竹澤 陽一 | 藤本 勝 | 雨宮 松雄 |
| 松尾 政則 | 喜多 勲 | 堀口 茂義 |
| 松波 久子 | 辻森 保蔵 | 金谷 保史 |
| 中岡 尚登 | | |



【桔梗が丘地域図】

